

# まち地域づくりファイル

大崎市流地域自治組織による、地域や地区の特性を生かした個性あふれる地域づくりを紹介します。

## 8 三本木地域 三本木まちづくり協議会

### 地域のことを 地域みんなで考え 地域みんなで解決していくために

#### 地域で子どもを育てる

三本木地域では、活力ある地域の創造に向けて、産業、文化、教育、体育健康、福祉、安全、コミュニティの7つの部会を構成して、まちづくり協議会がさまざまな活動をしています。

まちづくり協議会、「三本木と学校をつなぐ会」と三本木中学校が連携して行っている「キャリアセミナー事業」では、地域の将来を担う子どもたちに、地域で働く大人が講義を行っています。三本木地域を中心に、さまざまな職種のボランティア講師が自身の人生を振り返り、働くことや人とのかかわり方、地域のことなどを話し、生徒に生きる力を伝えています。世代を超えた話し合いで、生徒と共に大人たちも気づきや学びを得る機会となっています。昨年は、キャリア教育の功績が認められ、中学校では県内で唯一、「第11回キャリア教育優良教育委員会、学級およびPTA団体等の文部科学大臣表彰」を受賞しました。



▲真剣に講師の話の聞く三本木中学校の生徒たち

#### 地域の情報を伝える「さんぼんぎねっと」

市の合併後、地域の情報が住民に伝わりにくくなったことが三本木の課題の一つでした。地域の情報を細やかに伝えようと「さんぼんぎねっと」の発行が始まりました。地域の行事や各行政区から寄せられたお知らせなど、暮ら



▲地域の情報が満載の「さんぼんぎねっと」の編集会議

しの中で役立つ情報が盛り込まれています。市の合併10周年の際は、地域の歩みを写真とともにまとめた、独自の記念誌を作成しました。

#### ひまわりのような笑顔を届ける

コミュニティ部会で作る「すいせん植え隊」は、各行政区や国道4号の沿道などに季節の花々を植栽して、通る人たちを楽しませています。

東日本大震災以降、被災地支援の一環として、沿岸部の幼稚園や商店街などにひまわりを植栽して、元気な笑顔



▲石巻市の仮設住宅へ、ひまわりの鉢植えをプレゼント

早く取り戻してもらおうと取り組んできました。現在は、三本木中学校の生徒たちも参加し、地域からのボランティアと共に、石巻市大原浜地区への花苗のプレゼントや夏と冬のまつりへの参加など交流活動を行っています。

#### 笑顔のあるまちづくりを目指して

「地域課題はたくさんあるが、みんなできっと話し合う機会を得られなかったことが協議会としての課題の一つ」と本田燕子会長は振り返ります。

「まずは、次世代の人たちを巻き込み、話し合いの場をつくる。みんなが地域の課題を共有して、次につなげていきたい。地域でできることは何か。話し合いに軸を置いたまちづくりを進めていきたい」と話してくれました。

若者のまちづくりへの参加は、どの地域でも期待されています。若者が活躍できる環境や工夫を探る話し合いの場として、12月2日、三本木総合支所で開催される「きょうDo! (協働)のまちづくり文化祭」に、本田会長は大きな期待を寄せています。



# わがまち 企業訪問 特別編

大崎の企業の優れた製品・技術が一堂に集結した「おおさき産業フェア」。今回は特別編として、その様子を特集します。

農・商・工・観光の枠組みを超え「おおさき」でつくられた製品・技術を一堂に展示



▲かながけを体験する学生。地元企業がモノづくりの魅力を伝えます。

市では、大崎でつくられた製品・技術・商品・特産品を市内外に発信し、地域の企業活性化や情報交流を深めるため、毎年10月に「おおさき産業フェア」を開催しています。今年は10月12日～13日に開催し、60企業・団体が参加。たくさんの方の来場者でにぎわいました。大崎で磨かれた技術や製品には、国内を代表する大企業と連携されているものも数多くあります。身近な電化製品や自動車などがどのような技術で製造されているのか。地域の企業の活躍を知る機会は、数多くあるものではありません。

#### トライボロジーの世界的権威 堀切川教授が審査!

### Dr. ホッキー賞

※トライボロジー(摩擦・摩耗・潤滑に関する総合科学技術)

産業フェアでは、「Dr. ホッキー賞」と称し、出展するブースの中から、より優れた製品や技術を表彰しています。審査を務める「Dr. ホッキー」こと東北大学大学院工学研究科の堀切川一男教授は、大崎市ものづくり課題解決研究会の座長として、市の産業やモノづくりの将来に尽力をいただいています。

受賞作は、国内イベントでの展示・活用や大手企業との連携が実現したものもあり、地域産業の発展が期待されています。今年、グランプリに下記の2社、特別賞に6社(株)ヒシマ、大研工業(株)、ヤマセエレクトロニクス(株)、(協)グリーンエネルギーパートナーズ、横江コンクリート(株)、プロンプター甲斐(有)が選ばれました。



各企業のブースでは、普段は目にすることができない、製造過程の様子や最新の製品・技術が紹介されました。技術者の苦労や思い、企業の努力が詰まった製品の説明・展示に、子どもから大人まで、真剣な表情で聞き入っていました。市では、今後も地域活性化に向けて、各産業を支援していきます。

ほつきりがわ かずお 堀切川 一男 教授

昭和59年東北大学大学院工学研究科機械工学専攻博士課程修了。工学博士。東北大学工学部助教授、山形大学工学部助教授を経て、平成13年6月から東北大学大学院工学研究科教授、現在に至る。

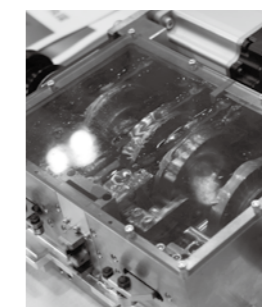
### Dr. ホッキー賞2018 グランプリ

▼共伸プラスチック(株)「いぎなりクリップシューター」



自動車の内装などに使われている樹脂成形品は、高温で製造されています。「いぎなりクリップシューター」は、従来必要だった冷却時間を設けずに、専用ロボットがクリップを取り付けることができ、世界で初めて開発された点も評価されています。

▼スガワラ技研(株)「高速カムボックス」



歯車を使わずに、4つのカムによって毎分2400回もの動作が可能な機器。コネクターの製造過程で使用され、従来より3割も早く作業の高速化を実現しています。高速で回転しながら、動作がスムーズな点が評価されました。